転校する先、アメリカ！？

愛福

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
転校する先、アメリカ！？

【Ｎコード】
Ｎ１９５１Ｖ

【作者名】
愛福

【あらすじ】
いきなりアメリカにホームステイすることになった主人公：まりえはアメリカで全く新しい生活をする！
空気を読むことを知らなかったり、全く常識の通じないアメリカ人に戸惑いつつも、成長していくまりえのどたばた・ギャグコメディー！

始まりは突然に（前書き）

この小説はほとんど作者の妄想です。
従って、一部嘘、真偽のわからないものが入ってきます。
そして、この世に存在する政府、軍などとは一切関係がありません。
以上を読んで、おＫ！読んでやろうじゃないか！という方だけ読んでください。

始まりは突然に

こんにちは！私の名前は神崎まりえっていうんだ！
突然なんだけど、今、人生最大の危機に陥ってます！
だってだって、親父がいきなり「明日からアメリカで暮らせ」！」
とかっていってんだ！訳分かんない！こういうの、なんていうんだっけ？そうそう、青天の霹靂（へきれき）？
まずは落ち着いて状況を整理してみよう！
まずは、家帰ってきて、宿題やって、夕ご飯食べて、いきなり、「明日からアメリカで暮らせ！」
うん、もっと分からなくなった。
「聞いてるか？はやく荷物をまとめなさい。」
「あのさ、何で突然アメリカなの？」
「それは、我が家のしきたりだ。昔からある、な。ちなみにお父さんはイタリアに飛ばされて、イタリア語なんてやってなかったから現地で習得したぞ。さ、はやく荷物をまとめなさい。」
「ちょっと待ってよ！まだ転校の挨拶だってしてないのに・・・・。急にそんなことといわれても困るよ！それに、英語とかって正直あんま分かんないし！」
「だいじょうぶだ。このときのためにお前には英会話を習わせてある。」
確かに、英語は他の人より出来る。テストとかでも英語は大事な得点源だ。
「一日くらいあるでしょ！明日まで待ってくれない？」
「明日か・・・・。そう言うと思ってホームステイ先には明日着く予定といってあるから、まあ、一日くらいなら、延ばせるぞ。」
「ありがとう！」
そうと決まったら、はやく友達に連絡しなきゃ！！！！
「あ、そうだ。アメリカのどこら辺に行くの？」

「ニューヨークだ。」
「ニューヨーク・・・・。」

始まりは突然に（後書き）

新連載始めてみました。
今まで以上にがんばります！

転校挨拶（前書き）

ぐだぐだです・・・。

転校挨拶

「今日ニューヨークにいきます。今までみんなありがとうございました。」
帰りの会で私は涙ながらにそういった。
「今日・・？」
「まだ送別会も何にもやってないのに・・・。」
「急すぎるよ！」
という声があちこちから聞こえてくる。
私だっていきたくないのに。このクラスメイト達とは明日からもう会えないということが未だに信じられなくて、涙が止まらない。
確かに急すぎる。私だってもっとこのみんなといたかった。
もう決まってしまったといっても、まだみんなといたいという気持ちは変わらない。
「それじゃあ、さよなら。」
必死に平静を装って、みんなにそう告げる。さようなら、親友、さようなら、クラスメート達。
「まりえ！」
何だろう、私の親友の一人が走って追いかけてきた。
「突然のことだから、私もたいしたものは準備できなかったんだけど、これあげる！」
差し出されたのは四つ葉のクローバーだった。
「これを私に？いいの？」
「いいの！前の時間みんなで一生懸命探したんだ！」
それでみんなこそこそしてたのか。
でも、とっても嬉しい。こんな私に！
「ありがとう！」
「アメリカでもがんばってね！」
「うん！」

みんなの暖かい声援に送られて、私は日本から飛び立った。

転校挨拶（後書き）

「おとうさん、ちょっといい？」
「なんだ、まりえ。」
「一生に一回乗るかわからない飛行機だから、エコノミークラスじゃなくて、ファーストクラスに乗ってみたいんだけど。決してぜいたくをいうわけじゃないけど。」
「十分贅沢言ってると思うよ。いいか。ファーストクラスでアメリカの西海岸にいくにはざっと１５０万円は必要だ。」
「げっ！」
「それに、一生に一回っていってもお盆と正月には帰ってきてくれないと困るんだ。せめて正月は帰って来いよ。そのためのチケット代が３年分トータルすると結構きついんだから！」
「そ、そうかあ・・・。」
本編にどうしてもはいんなかった小ネタです。
最後まで読んでくれてありがとうございました！

さあ異国の地アメリカへ（前書き）

サブタイトルが微妙にかっこいいですね。
さて、ついにアメリカのホームステイ先のおうちを伺います！

さあ異国の地アメリカへ

ついた～！
１２時間かかってやっとついたから、飛行機の中で寝ちゃったけど、すごく変な感じ。
だって、まだ深夜なんだもん。だまされてる気がする・・・。
でも、ホームステイ先のおうちの人はちゃんと待っていてくれた。
ついにきたぜＮＹ！！
「だいじょうぶ？」
「すいません。」
テンションの上がってる私に耐えかねたのか、話しかけられた。日本生まれの日本育ちの私にも聞き取れるようにゆっくりと話してくれてとても気遣ってくれた。
「じゃあいきましょうか。」
そういわれて指された指の先にあったのは・・・。
でかい車。普通の７人乗りとかじゃなくて、なんかすごく・・・燃費悪そう。
「ほら乗った乗った」
「はい・・・。」
発進された車の中で私は車酔いと闘っていた。
だってすごく飛ばすんだもん！
「あ、あの・・・速すぎないですか？」
「ＨＡＨＡＨＡ！こんなもんだろ！」
って言われちゃったし。
なんかすごく揺れる。
それに私と同い年のフレッドくん（というらしい）が
「日本ってどんな感じ？」とか「これからよろしくね！」とか高速で話すんだもん。英会話習ってるっていったって聞き取れなかったりわからない言葉も当然あるのに！

おかげで家の前についたときはへろんへろんだった。
でも、ここで3年間過ごすと思うとすごくわくわくした。
「あなたの部屋はここね。明日はホームパーティだから、早く寝なさい。」
寝なさいっていっても、全く眠くないんですけど。
時計をみると、夜１２時。
日本時間に直すとたしか１４時間の時差で、え～っと
計算すると、昼の２時になった。
眠れないのも当然か。
仕方がないので私は送られた荷物の中の整理をして夜を明かした。
全く眠くない夜なんて一生のうちに何回経験できるのかな？

さあ異国の地アメリカへ（後書き）

がんばったぜ！

ホームパーティ（前書き）

これ書くの久しぶりです・・・。

ホームパーティ

夜の間にごそごそしてたから、家の部屋割りや何がどこにあるかぐらいはだいたい解った。
そこで見つけた問題点。
なんとこの家の風呂は
「トイレもいっしょについてる・・・。だと！？」
そう、ユニットバス形式というか、要するに浴槽に湯をためてはいるタイプじゃなくて、シャワーだけで済ませるという、あれですよ。
「これから先、どうしよう・・・。」
そんな一抹（いちまつ）の不安を感じた。

それから、家の人が次々と起きてきて、朝ご飯になった。
アメリカの人は朝ご飯はシリアルで済ませると言っていたけど、本当だったんだな～。

お昼頃になって、ホームパーティを開いてくれた。
ご近所さんも来て、みんなでわいわいやって、とっても楽しかった！
「Ｗｅｌｃｏｍｅ　ｔｏ　ｍｙ　ｈｏｕｓｅ！！」
と歓迎してくれた。

のはいいんだけど！
その間私は戦っていた。　　睡魔と。
お昼１２時頃になったら首がかっくんかっくんなって眠いったらありゃしない！
日本時間に直すと夜の２時ですよ～その間ずっと動きっぱなし。
（こ、これが時差ぼけか・・・・。）
がんばって意識を保とうと試みたものの、睡魔が私に襲いかかるっ！！

３時くらいになって宴もたけなわになったころ、夫妻がケーキを出してくれた。
意識が半分夢の世界だったけど、このケーキの色だけは私は絶対忘れないだろう。
だってピンクと緑。
日本で言ったらこの色合いだと桜餅を連想する人が多いと思う。
でもこれはそんな生やさしいものじゃない。
「ｙｏｕ　ｌｉｋｅ　ｃａｋｅ？」
「い、いえす・・・。」
空気を読んでそういったけど、これは本能が無理と告げていた。
周りの子供たちは狂喜乱舞してるけど、私は無理無理！！
ピンクがどきつい目がちかちかするような蛍光ピンクで緑がどうかんがえても葉っぱの色じゃないインクをぶちまけたようなど緑っ！！
うえぇぇぇ・・・。
でも、皿によそって貰った分だけは食べた。
砂糖がききすぎて味と言うよりもはや刺激。
食べ終わった私の意識はついに睡魔に負け、夢の世界へ。。。

ホームパーティ（後書き）

綴りとか間違っていたらご指摘ください！！

荷ほどき（前書き）

これ、父と家電製品店にいたときに考えついたネタでした。
注意！
ここから英語がめんどくさくなった作者が勝手に日本語にするよ！

荷ほどき

目が覚めると夜の８時だった。
「わあ、寝てたわ。」
家の人から聞くには５時間ぐらい寝てたそうだ。
「Ｏｈ，ａｒｅ　ｙｏｕ　ＯＫ？」
「ｙｅｓ，Ｉ＇ｍ　ＯＫ」
と答えて、二階に貰った自分の部屋に行く。
所狭しと並ぶ段ボールの山、山、山。
「マジでどうしよう・・・・。」
日本から超特急で荷物をまとめたから何処に何が入ってるかなんて覚えてない。要するに開けてみないと生活できないというわけで。
「と、とりあえずコンセントをさして、明るくしなきゃ」
と、ここで大問題発生。

「・・・え？」
待て待て待てーい！！！！！
「こ、コンセントがはいらない・・・・・？」
えーっと、これは日本で普通に使ってる奴だよね。二つの棒がつきだしてるような形してるあれだよね。でも、ここのって
「根本的に形が違うじゃないか～～～～！！！！」
そう。なんか下にもう一つ穴かあいていて、そのせいでなんか全然電気通ってない感じだよ！
となると。
「日本から持ってきた電子機器がほとんど使えないことになる・・・

・。」
パソコンや机の証明はもちろん、携帯の充電器とか、ヘアアイロンとかその他諸々が使えない。
「うそーーーーーーーーん！！！！！」
まりえの叫びはむなしく空へ消えた。

後日。

まりえへ。
どうだーニューヨークは。元気でやってるかー。
今日は変換器を買ってきてやったぞー。
結構探すのが大変で、最終的にアマゾンで買ってきたんだ。
ニューヨークはこの形だと思うので、送ります。
十個もいらないってか？いいのいいの貰っとけって。お父さんもイタリアにいたときは電子器具が使えなくてムキーってなったことがあった。でも、現地ではなかなか手に入らなくて大変だったぞー。
じゃあな。

「ってそんな便利な物があるんだったら出発前に渡してよ！国際郵便って結構高いんだから！」

荷ほどき（後書き）

え～～～っと、変換器ってのは、コンセントの形が違っても差し込めるように中で電気を変換してくれる便利な機械です。日本のコンセントの形は結構統一されていて、皆さんが知ってるあれですが、外国に行ったりすると結構形が違って、困ることがあります。皆さんも十分注意して下さい。外国でケータイ使おうとして電池が切れてて動かない、充電もできない状態になると凄く困ったことになります。

お近くの家電製品店とかで確認してみてね（宣伝かよ！）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1951v/

転校する先、アメリカ！？

2011年11月6日10時22分発行